

山田真世さんのご紹介



山田真世さんは、学生時代から、幼児の描画発達を研究する新進気鋭の研究者です。発達心理学における描画研究は、子どもが描いた結果＝形状に目が向けられることが多かったのですが、山田さんは、子どもの描こうとする意図に注目して、**コミュニケーションのプロセスとして描画活動**をとらえている点に独自性があります。その研究は学会でも高く評価され、城戸奨励賞（保問研創設者である城戸幡太郎氏に由来する日本教育心理学会の賞です）を受賞されました。

最近、福山の保育園において、日常的な描画活動をたっぷり観察して、描画表現に込められた子どもたちの想いを保育者の皆さんと共有することを続けています。保問研の実践研究を支える若手研究者として、ますます活躍が期待されています。

以前、山田さんがスペインのアルタミラ洞窟（18000年前の洞窟壁画）に行った時のお話をうかがいながら、なぜ人類はそこまでして絵を描くのかなという話をしたことがあります。

あわせて、「なぜ、おとなになると、絵を描かなくなる人が増えるのかな？」という問いも浮上してきました。この問いは、絵を描くという表現の発達や保育を考えるのに大切なことかもしれません。

いつも、子どもの姿を楽しそうに語る山田さん。その彼女が「描く楽しさ」をお話されるということで、講座への期待は高まります。きっと、幼児の描画を観る視野が広がるきっかけとなりますよ！

山田さんをよく知る研究仲間を代表して

木下孝司（神戸大学・京都市在住、兵庫保問研）